



南牧中通信

☆教育目標☆ 共に学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成

※ホームページではカラー版がご覧いただけます。 アドレス <http://www.jhs.nanmoku.ne.jp/>

〒370-2806

南牧村大日向1045

TEL:87-2501 FAX:87-2550

E-mail nan-jht1@nanmoku.ne.jp

（文責：校長 久保 俊明）

☆☆ 新しい生活様式を実践して、学校再開！ ☆☆



新型コロナウイルス感染拡大防止のために、南牧中学校は4月の27日から3週間、臨時休業となっていました。が、予定どおり5月18日より学校を再開することができました。少し緊張しながらも笑顔で登校してきた生徒たちを見てひと安心するとともに、生徒の姿があつてこそその学校であることを再認識しました。

県内で学校を再開したのが南牧村だけだったので、テレビ局やラジオ局、新聞社などのマスコミの方々が、登校してくる生徒の様子を記事にするため、玄関周辺に集まっていました。なので、校舎内に入るまでは子供たちも緊張していましたが、すぐにいつもどおりの学校生活に戻り、楽しそうに生き生きとした顔で授業を受けていました。この臨時休業中に体調を崩した生徒はおらず、与えられた課題も順調に進められたようです。時間的に余裕があったので、家庭の仕事のお手伝いをしたり趣味を楽しむ時間に使ったりと、充実した時間が過ごせたようです。この3週間の経験を、これからの学校生活に生かしてくれることを期待しています。

学校は再開できましたが、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いによる手指の衛生」などをはじめとした、『新しい生活様式』を実践し、3つの「密」を避けながら学校生活を送っていく必要があります。現在、県内の新規感染者数は少なくなっていますが、決して油断することなく緊張感をもって学校運営に努めてまいります。

まずは、遅れ気味になっている学習内容を習得させることに力を入れ、部活動の練習などで体力を回復させ、様々な行事をとおした思い出づくりにも配慮していきたいと思ひます。学校生活を新型コロナが広まる前のような状態に戻すのには、さらに長い時間がかかりそうですが、安全面の配慮をできる限り実施しながら、子供たちの学校生活を充実させていきたいと思ひます。今後も、ご家庭や地域の皆様と力を合わせて、生徒の健全育成に全力で取り組んでいきたいと思ひます。



◇生徒会集会 JRC(青少年赤十字)登録式◇

5月19日(火)の生徒会集会では、延期になっていたJRCの登録式を行いました。最初に生徒会本部から青少年赤十字の説明があり、次に全員で誓いの言葉を述べました。最後に各自が署名をして終了です。学校再開後、すぐの集会だったので、今回はなるべく短時間で終わらせるためにポイントを絞って登録式を実施しました。生徒会長のW・Y君と副会長のI・S君の2人で、この日のために準備をしてく



れました。生徒会本部の頑張りのおかげでスムーズに式が進みました。お疲れ様でした。

青少年赤十字の精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、命と健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕できる生徒を育成していきたいと思います。

○うばい合えば足らぬ、分けあえばあまる○

5月26日(火)の学校朝礼では、最初に表彰式を行いました。今回は、「上毛新聞ジュニア俳壇」で俳句が入選したH・K君、I・S君、W・Y君の3人と、「校内読書マラソン」の2020ページ達成者であるI・S君を表彰しました。読書マラソンというのは、生徒の読書量を増やすための取組で、今年から始めたものです。学校が再開されると読書に使える時間が少なくなるかもしれませんが、積極的に読書に取り組んで、心に栄養を与えてもらいたいと思います。



その後の校長講話では、「地獄と極楽」の違いについての話や相田みつをさんの「うばい合えば足らぬ、分けあえばあまる」という詩を紹介して、「現在のような大変な状況の中でも、正確な状況判断と相手を思いやる心が大切である。」という話をしました。

△▽ さっそく 生徒に配らせていただきました △▽

富岡青年会議所より、各家庭に1箱(50枚入り)ずつマスクを頂きました。まだまだ入手しづらい不織布マスクですので、学校生活では必需品であるマスクを頂けて、大変助かります。さっそく生徒に1箱ずつ配らせていただきました。貴重なマスクをありがとうございました。



「新しい生活様式」



玄関で検温



授業中もソーシャルディスタンス



集会もマスクをして参加